



# 首相問責を可決



参院本会議で、自身の問責決議案の投票を見守る野田首相（奥）＝29日午後

参院本会議の 首相問責決議投票結果	
投票総数	220票
(過半数)	111
賛成	129票
反対	91票

# 参院「政権担当能力が欠如」 今国会の解散応じず

参院は29日午後の本会議で、野田佳彦首相に対する問責決議を野党の賛成多数により可決した。野党は「政権担当能力が欠如している」として直ちに衆院解散・総選挙に

踏み切るよう首相に迫り、一部の議員立法などを除いて国会審議を拒否する。しかし首相は今国会の解散には応じず、10月の召集が想定される秋の臨時国会以降に先送り

する構えだ。問責決議は10例目。首相に対しては3例目で民主党政権の首相では初めて。決議に法的拘束力は無いが、過去の例では閣僚らが結果的に交代に迫

い込まれるなど政治的効果は大きい。消費税増税法をめぐって築いた自民、公明両党との協力関係は崩れ、政権運営は厳しさを増す。

国会は事実上空転し、2012年度予算執行に不可欠な公債発行特例法案は廃案となる見通し。衆院の「1票の格差」是正などを盛り込んだ民主党提出の衆院選挙制度改革関連法案は、与野党が取り扱いを協議する。首相は9月21日の民主党代表選で再選を目指し近く立候補を表明する。自民党の谷垣禎一総裁も、同26日と想定される党総裁選で再選を期す。首相は増税法成立に協力を得るため自民、公明両党党首と「近いうちに信を問う」ことで合意。その後、今国会中の解散を求め対決姿勢に転じ、首相が応じないとして問責決議に踏み切った。